



## 校長室だより

2026年3月24日  
丹波市立進修小学校  
校長 松田 亜矢

### チーム担任制で育む「自律する力」

保護者の皆様、今年度も本校の教育活動へのご理解とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。今年度から、新たな取り組みとして、子どもたちを複数の教員で受け持つ「チーム担任制」と「教科担任制」を導入し、「自ら学び続ける子どもの育成」を目指して取り組んでまいりました。この一年間の成果と課題について報告します。



#### 子どもたちにとっての大きなメリット

チーム担任制の最大の成果は、子どもたちが「多様な大人と関わり、自分に合った先生に相談できる」環境が整ったことです。

##### ・多角的な視点による見守り

複数の教員が多角的な視点で見守ることで、一人一人の良さや変化に気づきやすくなりました。また、一人の価値観を押し付けることを防ぎ、多面的な良さを見つけて伸ばすことが可能になりました。子どもたちにとっては、「話しやすい先生に相談できる」ことが大きな安心感につながり、中学校へのスムーズな接続に向けた自律心も養われています。低学年では、毎日複数の先生と顔を合わせることで「先生たちみんなが自分たちのことをわかってくれている」という認識が育ち、学校全体への安心感につながっています。

##### ・主体的な学びの広がり

教員は、単なる指導者ではなく、子どもの伴走者（ファシリテーター）として関わる意識をもつようにしています。そうすることで自分たちでよりよいクラスを創ろうとする子どもの主体性や自己決定を促す環境づくりが進んでいます。

## 教師側の変化と成果

教職員間でも子どもの情報共有が活発になり、精神的な負担が軽減されたことで、子ども一人一人と向き合う心のゆとりが生まれました。学年の枠を超えて、「全職員で全児童をみる」という意識が確実に高まっています。

## 見えてきた課題と、来年度への改善策

### ・きめ細やかな対応の継続性

時間割変更の連絡ミスや、教員が交代することによる指導（忘れ物対応など）の継続性の難しさを感じました。これに対し、来年度は ICT を活用し、誰が見ても状況が詳細に把握できるシステムを構築します。

### ・子どもたちの心理的な安全への配慮

環境の変化に敏感なお子様や、特定の教員との愛着形成が大切な時期のお子様に対しては、担任交代の頻度を柔軟に調整します。特に配慮が必要な場合は、「窓口担任」として固定の担任教師を置くことで、安心感を損なわない体制を整えてまいります。



### ・保護者の方にとっての安心感

保護者の方が安心して学校に相談できるように、窓口担任を決めたり、相談しやすい教員に連絡をしたりしてもらえるようにします。

## 変化の激しい未来社会に対応できる準備として

社会に出れば、多様な考えを持つ多くの大人に出会います。その準備段階として、小学校のうちから「いろいろな大人と関わり、自ら考えて動く力」を養うことは非常に重要です。

今後も、教職員一同がチームとして一丸となり、お子様一人一人の成長を全力で支えてまいります。取り組みへの不安や質問がございましたら、いつでも学校までお寄せください。

新年度の体制については、4月の校長室だよりでお伝えします。また29日の参観日の後の懇談会でも説明させていただく予定にしています。